

# hesso

02

take  
free

東北大学病院  
広報誌「へっそ」



特集…つながる地域医療



hesso(へっそ)は東北大学病院の広報誌です。人のカラダを中心に、いまの医療を中心に、地域の皆さまにわかりやすく当院の活動を紹介します。hessoを中心に人の輪ができる、まさに地域の「おへそ」のような存在を目指します。

## 表紙のひと



東北大学病院  
高度救命救急センター  
スタッフ

救急のエキスパートとして活躍する医師と看護師。診断と治療が同時に進行するなか、冷静さ緻密さ、時には大胆さも必要とされるのが救急の現場。患者さま一人ひとりと真剣に向き合い、そのご家族に寄り添い、最善の医療を提供するべく、チーム一丸となって取り組んでいます。そんな志を共にする仲間と久志本センター長(中央下)を囲んで、屋上ヘリポートにて、へっそポーズ。

# 特集 つながる

## 地域医療

東日本大震災から3年、  
災害直後の混乱の後、  
2人の医師に与えられた次の使命は、  
地域を医師不足から救うことでした。  
新しい地域医療が  
未来につながりはじめています。

### 1 対談

気仙沼市立本吉病院 院長

川島 実

×

東北大学病院  
総合地域医療教育支援部 部長

石井 正

「奇特な人」で  
終わってはいけない

「「奇特な人が地域医療を支える時代はもう終わりだ」と思うんです」そう語るのは震災直後からボランティアとして気仙沼に飛び込み、1階部分が浸水した気仙沼市立本吉病院で地域住民の診療に尽くした川島実医師。震災から半年後には院長となり、今も体を張って本吉地区の医療を守り続けています。「僕も先生と全く同じ考えですよ。これまで地域の小さい病院の医師っていうのは一匹狼で、自分の良心や善意で飛び込んでそれに頼っていちや駄目でしたよって。そ

の人だって寂しくなっちゃうときだつてあるし、無性に都会に帰りたくなることだってあるんだから」震災の真つただ中であつた石巻赤十字病院で全国の災害医療チームを指揮した石井正医師

は、震災から1年半後、母校の東北大学に戻り、災害医療の経験を活かして地域医療の再建に奮闘しています。石井医師は大学卒業後に東北各地に赴き、地域医療に身を置いていました。「これまでローカーリズムで維持していたものが、川島先生のような方や災害時の医療支援も含めて刺激になって、今いい方向に動いていると感じています」(石井)  
東北大学では、全国から駆けつけた



医師による医療支援が一段落したころ、沿岸部の医療崩壊を回避するため、持続性を意識した医師派遣を開始しました。地域医療の将来を見据え、医学系研究科、病院、東北メディカル・メガバンク機構が組織横断的に実現させた取り組みの一つで、10の診療科が連携して若手医師を4か月交代で地域に派遣しています。「初めてのことだと思っんですよ、一つのプロジェクトで診療科同士がお互いに協力して人材のやり取りをするなんて。大学はややもすれば研究や高度医療ばかりと思われていますが、100年以上に渡って地域を守ってきた実績と責任がある。だからみんなでもやりましょうよっていうことなんでしょうね。その延長線上でシステムティックに動き続けて、ルールに変えて行く。」(石井)

## ジェネラリストという専門性

本吉病院も、医師不足への対策として、病院をあげて若手医師の育成に取りかかりました。研修病院として日本プライマリ・ケア連合学会から研修プログラムの認定を受け、今では全国から途切れずに研修医が集まっています。

「2012年春頃かな、ここで若い医師を育てられたらいいなと思いはじめたのは。研修医からは、今のところ面白かったというフィードバックしか無いんですけど(笑)みんながそう思ってたかったら(川島)、「根本的な課題は医師の偏在ですからね。地域の医師は少ないけど、仙台には多いって。だからドクターという職業としてのキャリアを、地域で楽しくというか、充実して積める体制ができれば若い人が集まるのかもしれない。医療は大きな病院だけで行われるものじゃないって、というのが当たり前になってくれば(石井)。」

もう一つ、川島医師が本吉地区で手がけている新しい医療に高齢者の在宅医療があります。自ら住民に呼びかけ、本吉地区を中心に口コミで広まりました。その数、134床。「在宅医療もそうですけど、僕らが診ているのは9割が一般的な疾患なんです。風邪とかねん挫とか。ただその中に珍しい病気が混ざっている。それをどうやってかき分けて専門家につなぐかっていうのが僕ら総合診療医の腕の見せ所で(川島)

「総合診療医」とは、患者さまの体の状態だけでなく社会生活も含め、幅広い領域の病気を診ることができ、ジェネ

ラリスト。同時に、必要に応じて適切な専門医への橋渡し役として、稀な疾患を見極める力が求められます。在宅医療や保健・福祉を含めた包括的な医療の現場でリーダーとして活躍する新たな医師像として注目され、近い将来、内科や外科、小児科などと並ぶ19番目の専門医に加わることに。「必要なのは患者さんのトリアージ能力なんですよね。日常疾患は地域で診る、極度に特化した専門的な病気が拠点病院へと。その眼力をどう養うかなんですが(石井)、「僕がここで怖がらずに仕事ができるのは大きい病院で次々運ばれてくる患者を診ていた経験があるからなんです(川島)

## 地域が求める医師を地域で育てる

「川島先生の仰る通り、トリアージ能力の養成には地域病院だけでなく、拠点病院との連携が不可欠だと思うんです(石井)。」東北大学は、県内3つの医療施設と連携して総合診療医の育成に乗り出しました。本吉病院も連携先の一つ。地域の医療機関と大学とを情報ネットワークでつなぎ、研究やキャリア形成のための教育プログラムを提供すること



石井 正 (いしい・ただし)

1963年生まれ。東京都出身。東北大学医学部卒業後、気仙沼市立病院研修医を経て、東北大学第二外科入局。2002年から石巻赤十字病院第一外科部長、2007年医療社会事業部長。2011年2月、宮城県から災害医療コーディネーターを委嘱された直後、東日本大震災が発生。石巻圏合同救護チームを指揮し、石巻の医療崩壊を救った。2012年10月、東北大学病院総合地域教育支援部教授に就任し地域医療体制の整備に携わる。

川島 実 (かわしま・みのる)

1974年生まれ。奈良県出身。京都大学医学部在学中からプロボクサーとしてウェルター級西日本新人王を獲り「現役医学部生ボクサー」として注目を集める中、医師国家試験にも合格。29歳でボクサーを引退後、和歌山県などで地域医療に携わる。東日本大震災発生直後からボランティア医師として被災地に入り、常勤医師不在だった気仙沼市立本吉病院を再開させる。2011年10月、気仙沼市立本吉病院院長に就任。

で、地域が必要とする医師を地域で育成するという新しい試みです。一方で、医師が定着するためには、生活環境をどのように提供できるかが大きな課題。「システムとして継続させるには「循環型」が一番いいと思うんです。大きな病院を拠点に4か月交代くらいで地域に出て行くような。一方で、川島先生のような責任者も育てないといけない(石井)。「地域病院で働きたいっていう医師はいるんです。問題は家族、子どもが受験となったら仙台に戻りたいとか出てくるでしょう。小学生くらいまでは田舎がいんですけれどね(川島)、「僕は岩手県遠野市にいましたけど、子どもの情操教育には寧ろ田舎が理想ですよ。家庭の事情に合わせて5-6年のスパンで交代できるようなシステムだといいんですけれどね。循環型は昔から言われているんですが、いかに実務に落とし込むかなんです。なんとかしないと(石井)、「僕も、次の人間が子どもを連れてきたくなる地域をつくるのが自分の仕事だと思っってますよ(川島)

## 描き出される地域の医療

「宮城県は非常に恵まれてますよね。

一県一大学で、宮城県医師育成機構があるって、行政と医師会と大学と医療機関とが密に連携して地域医療を守るためにはどうしたらいいかって本気で考えてる(石井)、「僕ら本当に、住民から神様って言われるんですよ。だけどそれは違う。今までここに居たお医者さんはそういう形で週に5回、年に365回とか当直して、そういうことができる奇特なお医者さんが、こだけじゃない、日本の地域を支えてると思うんですけど、それではこれからやっていけない。地域もね、医者を育てられるような地域になってもらわないと。医療は住民一人ひとりが作ってゆく問題だと思うんです。とにかく地域が変わっていかんと(川島)

医師を育てて送り出す大学、受け入れられる医療施設、患者、医師、保健福祉、そして地域。医療をとりまく多様な環境の中で、それぞれが求められる役割を果たすことで生まれるつながり。震災から3年の今、大きなつながりが描き出す未来の地域医療の姿が、浮かび上がろうとしています。

※東北メディカル・メガバンク機構/2012年2月、東日本大震災からの復興事業の遂行のために東北大学に設立された組織。ゲム情報を含む大規模な長期健康調査を県内で実施し、次世代型医療の構築を目指している。

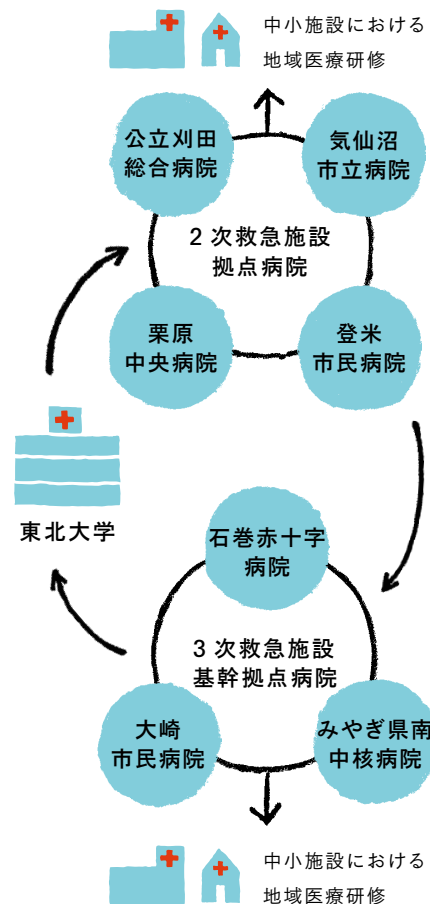


# 地域のことを本気で考えた医師育成システムをつくりました



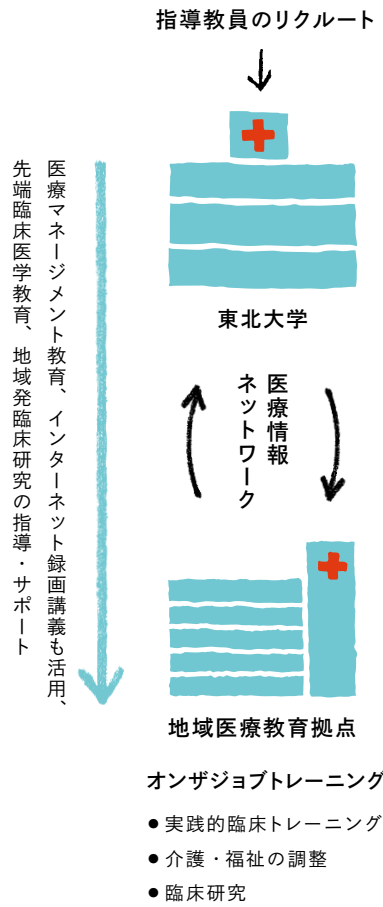
## 県内の多様な医療機関を重点的に研修

診療に従事する医師は、医師免許取得後に2年間の臨床研修が義務づけられています。東北大学病院では、この初期臨床研修プログラムの一環として、2年間のうち16か月を学外の東北大学関連拠点病院で研修する「地域医療重点プログラム」を新たに開設しました。宮城県全域をカバーする東北大学の特性を活かし、仙台市を除く県内を6つの診療圏（気仙沼、登米、栗原、大崎、石巻、仙南）に分けて、入院治療を必要とする2次救急、特に高度な処置を行う3次救急、それぞれの地域の中核病院から小さな診療所まで、多様な医療機関をまんべんなく研修することで地域医療における連携体制の仕組みを肌で感じながら、専門的なスキルや現場での実践力を培います。また、地域の医療環境の深い理解を促すことで、自らの適性を見極めて自分に合ったカテゴリーへ進めるような研修体制を整えています。



## 大学と地域が一体となって総合診療医を養成

総合診療医の新しい教育プログラム「コングリター型総合診療医の養成」の構築を進めています。このプログラムは、2013年8月に文部科学省の「リサーチマインドを持った総合診療医の養成プログラム」に採択されました。気仙沼市立本吉病院、石巻市立病院、みちのく総合診療医学センターの3施設を地域教育拠点とし、東北大学とICT（医療情報ネットワーク）で連結します。受講者である医師に対し、東北大学は、専門医療や医療マネジメントに関する専門知識・スキル及びリソースと地域発の臨床研究の指導・サポートを、地域教育拠点は、実践的臨床トレーニングや円滑な医療マネジメント学習のためのオンザジョブトレーニングを提供することで、地域にしながら専門医や学位取得などのキャリア形成やスキルアップが可能です。大学と地域が一体となりキャリア形成を担保した地域医療に必要な総合診療医の育成を推進し、東北地区の地域医療の復興・発展に寄与していきます。



## 医学生から、県職員まで様々な人が支えています。

### 東北大学の地域医療教育

先輩医師から、医学生へ、地域医療を伝えます

●こんなこともやっています

医学生は東北地区の地域医療に携わるモチベーションを高めるような卒前教育を行っています。具体的には、1・2年次に被災地体験実習（必修）、4年次に地域医療に関する連続講義（必修）、臨床実習の始まる5年次に1週間（必修）、6年次に4週間（選択）の地域医療実習を行い、被災地を含む地域医療の多層的な現場を体感する機会を多く設けることで学生の啓発に努めています。



### 頑張る人を応援

地域医療をやりたい、でも専門医や学位の取得もしたい。そんな医師のために、キャリア形成の様々なニーズに対応できるようサポートしていきます。皆さん、気楽に相談して下さい。



### 地域がひとつの病院

地域の未来を考えればこそ若い人には好きに生きて欲しい。限られた人的資源で福祉・保健・行政・住民が力を合わせた医療が私の理想です。



### 力になりたい

災害時はその地域の医療関係者は勿論のこと、外部からの応援も非常に重要だと学びました。私も将来、他の地域が万が一の際には力になりたいと思います。



### 地域と共に生きる

身体と精神を分けず、老若男女を分けず病に向き合い、人が、地域が、元気であるために、医療という枠にとらわれず、地域のみならず一緒に活動することを大切にしています。



### 暮らしを診る医療を

多様な関連病院での研修を経験しました。患者さまが暮らしている現場を見て、生活環境を考慮した医療がとても大切だと感じました。



### 全力で取り組みます

医師不足と偏在の解消が課題となっています。地域医療を担う医師のキャリア形成支援などを通じて、魅力ある医療環境の実現にこれからも全力で取り組みます。

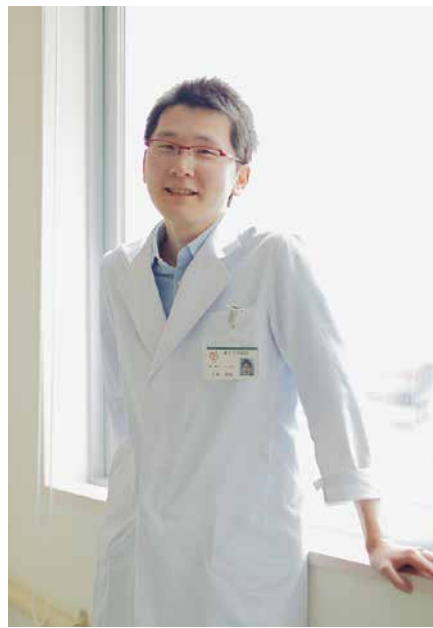




地域医療の現場から

# より適切な医療のため

東北メディカル・メガバンク機構  
地域医療支援部門 助教  
医師 三島 英換



三島 英換（みしま・えいかん）

1981年生まれ、神奈川県出身。2006年東北大学医学部卒業。2007年大崎市民病院研修医、2009年東京大学医学部附属病院を経て、2010年東北大学大学院医学系研究科入学。2013年3月腎高血圧内分科学分野博士課程修了。2013年4月より現職。東北大学病院腎・高血圧・内分泌科で診療にあたる。

2013年6月1日から4か月間、東北メディカル・メガバンク機構の地域医療支援事業の環で、南三陸町に建つ志津川病院の内科医師として勤務しました。本来の志津川病院は津波で流されました。そのため、現在は外来機能だけを持つ「公立南三陸診療所」と、登米市米山町の休眠病床を病棟とする「公立志津川病院」の2拠点体制で運営されており、私は主に外来診療を担当しました。南三陸では今なお住民の約半数が狭い仮設住宅での生活を余儀なくされています。また震災により、進んでいた高齢化に拍車がかかってしまったのも事実。し

かも高齢者にとって、海辺の平地から山間に移り住むことは本当に厳しい環境の変化だったと思います。そんな中、地元の方達が南三陸のゆるキャラ『オクトパス君』と共に町を盛り上げている姿が印象的でした。ちなみに赴任中は診療所の近くで生活しました。周辺には店が数軒ある程度。しかも私は自炊しないので、数少ない食事処へ毎日寿司ばかり食べに行っていました（笑）。行く度サービスしてくれるので、かえって申し訳なく思ったり。でも地域の方と同じ環境で生活した分、見えてきた課題も多くなりました。例えば高血圧予防には減塩が基本なんです。が、町の方は塩辛いものを好んで食す傾向があるので、少し気に掛かりましたね。地域医療には当然、専門分野以外の

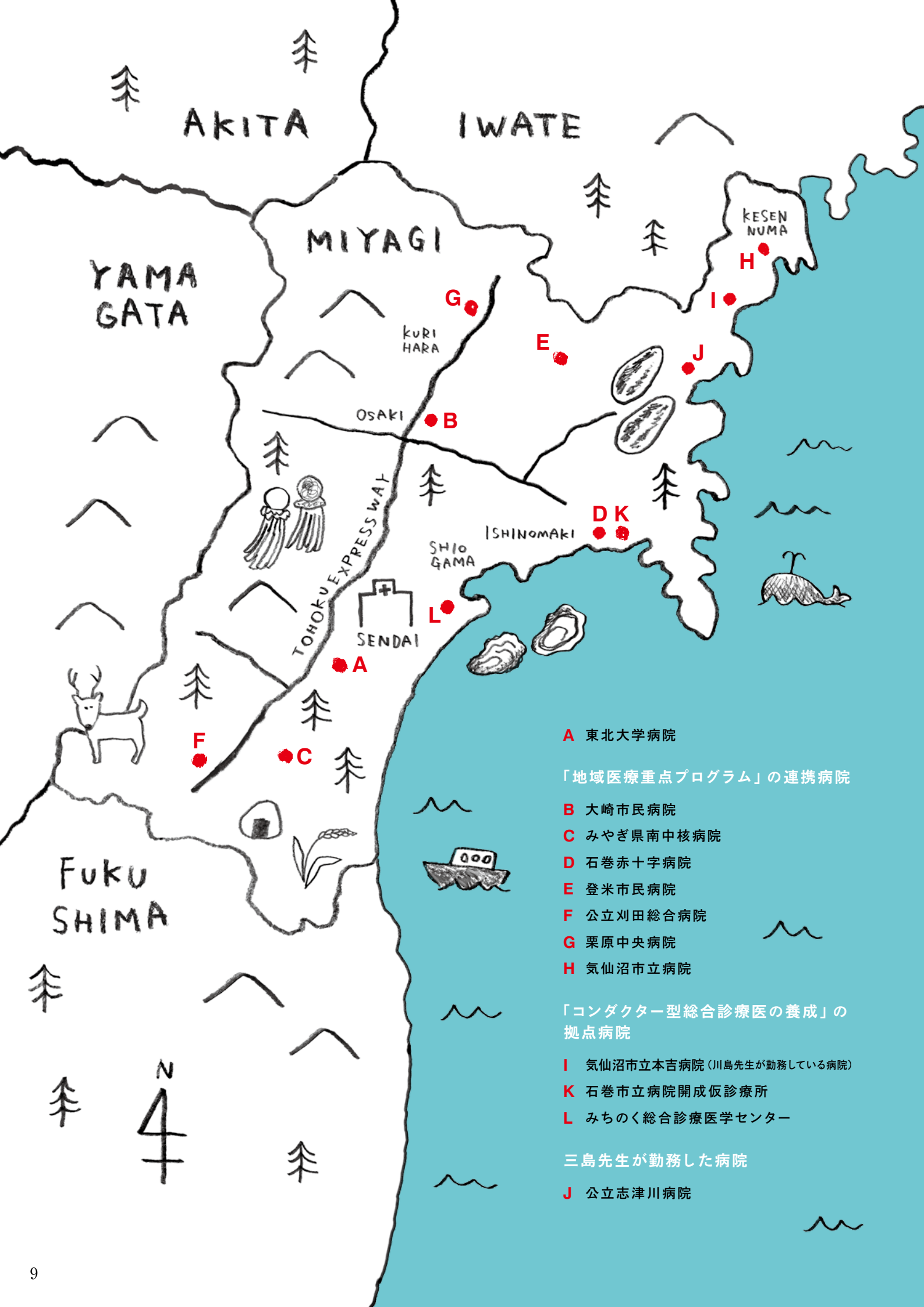
知識も求められます。中でも特に問われていると感じたのは、高齢者を診る知識。認知症などの医学的な治療は勿論、介護についての知識を問われるなど、地域医療に高齢者医療になりつつあることを改めて実感しました。また少人数の医師で多くの患者さまを診察するのが地域医療の現状であることを考えても、自分に足りないスキルを補うシステムの構築はこれからの大きな課題と言えるでしょう。赴任から4か月後、引き継ぎをしっかりと終えて大学に戻りました。私が戻ってきた後も、引き続き他の医師が4か月単位で志津川病院へ出向いています。大切なのは、今後も各現場に必要なマンパワーやリソースを、適宜調節し送り続けていくことではないでしょうか。



南三陸町のキャラクター「オクトパス君」を診察



公立南三陸診療所の皆さんと



- A 東北大学病院
- 「地域医療重点プログラム」の連携病院
- B 大崎市民病院
- C みやぎ県南中核病院
- D 石巻赤十字病院
- E 登米市民病院
- F 公立刈田総合病院
- G 栗原中央病院
- H 気仙沼市立病院
- 「コンダクター型総合診療医の養成」の拠点病院
- I 気仙沼市立本吉病院（川島先生が勤務している病院）
- K 石巻市立病院開成仮診療所
- L みちのく総合診療医学センター
- 三島先生が勤務した病院
- J 公立志津川病院





宮城高等歯科衛生士学院を卒業後、16年間の診療所勤務を経て、2010年より東北大学病院に入職。主に予防歯科を担当。趣味は10年以上続けているフラワーアレンジメント。

# 野菜を食べる

## 副菜レシピ



岡本智子 室長 監修

栄養とうまみが豊富に含まれる旬の素材を使った美味しい野菜の副菜レシピをご紹介します。あらかじめ料理の時間を短縮する下ごしらえをしておくことで、手軽に無理なく野菜を食べましょう。



## 「春にんじん」

春の食材

春にんじんはβカロテンやリコピンが豊富です。βカロテンは皮の下に多く含まれ、体内でビタミンAに変わります。リコピンは強い抗酸化作用をもつことから、がんや心臓疾患、動脈硬化などの予防に有効とされています。

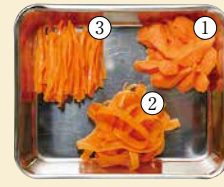
栄養バランスのとれた食事

毎食、主食（ごはん、パン、麺）、主菜、副菜汁物（野菜、芋、海藻、きのこなど）を揃え、1日1回、果物や乳製品を適量食べることで1日に必要な栄養素を偏りなくとることができます。



### 便利な下ごしらえ術

- ① 3種の切り方を紹介します。
- ② 大きめのさがき風乱切りに。
- ③ ピーラーを使って1.5cm幅で食べやすい長さのリップン状に。
- ④ 5cm長さの斜め薄切りにしてから、3〜4mm幅の千切りに。



### 和 きんぴらにんじん

食物繊維がしっかりとれる組み合わせで、乱切りの歯ごたえを楽しめます。



レシピ (2人分)  
フライパンにサラダ油小1/2を熱し、ごぼう60gを炒め少ししんなしたら、にんじん(下ごしらえ①) 50gを加え炒める。混ぜ合わせた調味料(酒小1・さとう小2/3・しょうゆ大1/2)を加えて炒め、ごま油小1/2をまわし入れる。いりごまをかけても風味が増します!

### 仏 にんじんとオリーブのラペサラダ

酢の物が苦手でも食べられる味付けで、酢の疲労回復効果も期待!



レシピ (2人分)  
ボウルに調味料(塩小1・さとう小2・白ワインビネガー大2・オリーブ油大2・黒こしょう小1/8)を合わせ、にんじん(下ごしらえ②) 150g、薄い輪切りの黒オリーブ5個、レモンの皮のすりおろし少々を加えて混ぜ、30分以上なじませる。ローストしたくみをに入れてもまた違う風味に。

### 韓 にんじんナムル

味付けに変化をつけ、不足しがちな緑黄色野菜をたっぷり食べられます。



レシピ (2人分)  
にんじん(下ごしらえ③) 50g、ひげ根をとったもやし(細いほうが合う) 30g、5cm幅に切ったにら20gの順でゆで、水気をよくきり(水にさらさない) 熱いうちに調味料(ごま油小2・塩ひとつまみ0.5g程度・んにくすりおろし大豆1つ分1g程度、すりごま小1)と和える。好みで醤油のうまみを加えても良いでしょう。

## 山崎佐千子さん

歯科衛生士 / 歯科衛生室

### 心がかよう瞬間が一番のよろこび

全身麻酔後の肺炎予防、化学療法、放射線療法による口腔トラブル予防のための支持療法の一環として口腔ケアを担当しています。特に頭頸部がんの治療では口腔粘膜炎による痛みがひどく、通常の歯ブラシが使用できない期間があるため、がん治療中に適した歯ブラシやうがい仕方の指導、専門的クリーニングをするのが私の役目です。

口腔ケアは患者さまご自身に必要な性を理解していただき実施することが何よりも大切。治療前の限られた時間でいかに口腔内の環境を整えるのが、私たち歯科衛生士の専門性が発揮される場所です。

以前働いていた診療所の患者さまとは異なった口腔内の問題や苦痛を抱えている方が多く、時には悩んだり戸惑ったりすることもありますが、「今日のクリーニング、とっても気持ちよかったですよ」「ありがとう」「またお願いね」なんて言われると、ケアをしているはずの私の方が患者さまの笑顔に癒されてしまいます。口腔ケアを通して患者さまに私の気持ちが伝わっていると思うと、何か通じ合ったような気がして心が温かくなります。

私たち東北大学病院の歯科衛生士は、歯科と内科との密な連携の中で、口腔衛生の役割を担っています。これからもチーム医療の一員としてお口を通じて患者さまを支えたい、そんな気持ちで日々患者さまと向き合っています。



Vol.02

ユニフォーム

「お仕着せを着ているおかげで、安心して声をかけられる、貧しい人々でも診てもらえる小石川診療所のお医者さんだとすぐにわかるから」、山本周五郎原作、黒澤明監督の映画「赤ひげ」にこんな一節があります。着ているものが所属する組織とその方針を代表する、ということを象徴していますが、現代の病院のお仕着せは、どんな状態になっているのでしょうか。

東北大学病院には職種、男女、診療科それぞれに多くの種類の服装があります。重視されているのは動きやすさや清潔を保つための機能の面と、患者さまをはじめとした接する方々に与える印象の面との双方。病院の多様な現場それぞれがそれぞれの機能を重視し、また別の現場との違いを意識して服装の規程を採用してきた結果か、「ユニ」（＝単一の、という意味）フォームと言えるような状態ではありません。

そんなマルチフォーム（？）とでも言うべき状態ですが、左袖には大抵、東北大学ロゴの萩マークやそれを意識したエンブレムが施されています。百花繚乱の服装の中、大学の名を背負うという意識を袖を通す者が持つように。東北大学では医療専門職を目指す学部生を対象に、一人ひとりにロゴが入った白衣を手渡すウエアセレモニーという式典を行うこともあります。冒頭に引用した映画で、若き主人公が成長する過程がお仕着せに袖を通すことで象徴的に描かれていました。私たち東北大学病院のスタッフも、人の命と健康に携わるプロフェッショナルとしての責任を身にまとい、皆さまの前に立っています。



院内リノベ室

充実の院内のお店をご紹介します！

院内リノベ室とは、院内の環境を改善すべく、日夜頑張るチームです。改善結果は、こちらで報告します！

ローソン東北大学病院店がオープンしました



外来棟1階(旧:外来棟売店)にコンビニのローソンがオープンしました。通常のローソン商品はもちろんのこと、院内コンビニならではの商品やサービスが充実しています。

営業時間：7:00～23:00

主なサービス内容：公共料金の支払、クレジットカードのご利用、電子マネー、Loppi、カラーコピー、ATM

- 1/ 病棟への移動販売もローソンになりました
- 2/ 雑誌だけでなく、他のコンビニにはない文庫本書籍も取り揃えています。またHMVの商品も取り扱い可能です
- 3・4/ オムツや体拭きシートなどの衛生用品、下着やパジャマなどの衣料品がずらり。院内コンビニならではのラインアップです



飲食コーナー



飲食ができるフリースペースとして、ホスピタルモールから中央診療棟への通路脇にあります。どうぞご利用ください。



院内喫茶  
大学あんぱん&焼きおにぎり



陳列棚に並ぶ「大学あんぱん」と「焼きおにぎり」は当院オリジナル。ご来院の際には、ぜひご賞味ください。



第9回東北大学病院市民公開講座を開催しました



10月20日、第9回市民公開講座「あなたの目年齢を若く保つために」を開催しました。野村克也氏による基調講演や、当院眼科医3名による教育講演に加え、角盈男氏によるプレゼント抽選会、盲導犬体験などのイベントもあり、1000名を超える方にご来場いただきました。

次回開催のごあんない  
WOCって?もっと知ってほしい  
排泄ケアとスキンケア

日時/2014年6月28日(土) 13時  
場所/仙台国際センター

お申し込み方法などは当院WEBサイトや、ポスター掲示などでお知らせいたします。ぜひご参加ください。

SNSを  
始めました

FacebookとTwitterの運用をはじめました。当院WEBサイト「当院からのお知らせ」との連動に加え、SNS独自の情報など、当院の日々の取り組みや活動を皆さまにお届けします。ぜひ、ご活用ください。

Facebookページ  
www.facebook.com/hosp.tohoku  
Twitterアカウント  
@hosp\_tohoku

総合防災訓練を実施しました



11月8日、仙台市内直下・長町1利府断層を震源とする震度6強の地震発生、院内の人的被害・火災発生無し、建物・設備に軽微な被害があるという想定で総合防災訓練を行いました。医師、看護師、医療技術職員、事務職員や東北大学医学部学生など約300名が参加し、災害対策本部の立ち上げ、トリアージ、重症度・治療優先度別の処置のシミュレーションなど、災害時さながらの訓練となりました。

世界腎臓デー



3月13日は世界腎臓デーです。腎臓病の早期発見と治療の重要性の啓発を目的として毎年3月第2木曜日と定められ、この日は各地でイベントが開催されます。我が国の成人の12%が慢性腎臓病患者であると推定されています。この機会に慢性腎臓病について考えてみませんか?

慢性腎臓病に関する公開講演会が開かれます

日時/2014年3月16日(日) 13時  
場所/ハーネル仙台(仙台市青葉区本町) ※入場無料

地域医療連携新聞

医療施設訪問を実施しています

当院の地域医療連携センターは「顔の見える連携づくり」という理念のもと、宮城県内全域の病院や往診医、看護ステーションなど医療施設への訪問を行っています。

今年度で7年目を迎えるこの活動は、当院を退院された後もスムーズに治療やケアが続けられるよう、地域の医療機関と連携して患者さまを支援することを目的としています。医師や看護師、医療ソーシャルワーカーなどがチームを組んで訪問し、医療施設と直接の情報交換を行う貴重な場となっています。毎回、訪問先の皆さまには温かく迎えていただいています。今後も、患者さまにとって地域につながる架け橋となるよう、各所への訪問活動を続けていきます。



野崎病院にて

平成25年度は、18施設への訪問を実施しました。  
仙台整形外科病院/仙台富田病院/川平病院/泉中央病院/仙石病院/真壁病院/宮田利府クリニック

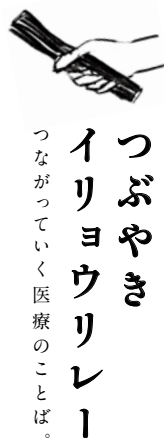
適切な医療を迅速に提供するため、かかりつけ医とのコミュニケーションを大切にしています。地域の医療機関に向けて、当院の活動を紹介します。

ク/木村病院/加美病院/鳴子分  
院/岩出山分院/鹿島台分院/涌  
谷町国保病院/野崎病院/青葉訪  
問看護ステーション/仙台北訪問  
看護ステーション/岡部医院/た  
んぼぽクリニック

地域医療連携センター  
講演会のお知らせ

「認知症の理解とケア」と題し講演会を行います。ぜひ、ご参加ください。

講演/認知症介護研究・研修仙台センター  
加藤 伸司センター長  
日時/2014年2月27日(木)  
17時30分~19時  
場所/東北大学医学部臨床講義棟大講堂  
対象/院内外の医療従事者  
問合せ/地域医療連携センター  
022-717-7131



つづやき  
イリヨウリレー  
つながっていく医療のことば。

失明に至る目の病気の多くが、気が付かないうちに進行し、いったん悪くなると元の状態に戻らないことが特徴です。また、目の病気はメタボリック症候群などの全身の病気によく合併します。失明を防ぐためには、片目を閉じて、片目ずつ見え方を確認したり、定期検診を積極的に受けることが大切です。



腎高血圧内分泌科 森 建文 先生  
眼科 中澤 徹 先生

高血圧や糖尿病などの生活習慣病や慢性腎臓病はセルフケアが重要です。車検のように健診を受け、食事管理や運動、節酒、禁煙などの生活習慣の是正は病気の予防や進行の抑制に役立ちます。日々の食事を記録し体重、血圧を測定する。これから始めてはいかがですか?まずは自分を知ることが大切です。

今回は、循環器内科の伊藤健太先生です!

院内の身近な疑問を、ずばっと解決

QさんとAさん

Qさん..入院している友人にお手紙を送ることはできますか?送る時はどうすればよいですか?

Aさん..入院患者さまへ郵便物を送ることができません。宛先に当院の住所、病棟名(西○○階、東○○階など)、患者さま氏名を明記のうえお送りください。患者さままでお届けいたします。

ご意見募集

hospoへのご意見、ご感想を募集しております。住所、氏名、年齢、ご意見をご記入の上、左記宛先までおハガキまたはEmailでお送りください。抽選でオリジナルノベルティをプレゼントいたします。

仙台市青葉区星陵町1-11  
東北大学病院 広報室  
pr@hosp.tohoku.ac.jp



ビルケース付き  
携帯カップ

編集後記

特集の取材でお邪魔した気仙沼市立本吉病院には、医療を求めて集まるたくさんの患者さまの姿がありました。「神様じゃない」と川島先生の言葉に地域医療の現場の厳しさが伺えます。生活再建の道がまだまだ険しい被災地にとって医療はひとつのライフライン。当院は「日も早い医療の復興」に歩み取り組んで参ります。(広報室)



